

試験研究成果普及情報

部門	花 植 木	対象	普 及
課題名：防草シートと地被植物を組み合わせた省力的な水田等の法面緑化技術			
<p>[要約] 防草シートと地被植物の組み合わせにより、雑草の発生が抑制され、省力的な法面緑化が可能となる。根を出して這い広がる地被植物の場合、防草シートの素材が被覆速度に影響するため、遮根タイプのものより貫根タイプの方が適している。組み合わせる植物は、木本植物よりヒメイワダレソウ、イワダレソウ、ペニーロイヤルミント等の草本植物の方が早く法面を被覆する。</p>			
<p>キーワード（専門区分）雑草（研究対象）その他（花き） - 緑化植物 （フリーワード）防草シート、雑草、法面、緑化、省力</p>			
<p>実施機関名（主査）農業総合研究センター生産技術部花き緑化研究室 （協力機関） （実施期間）1999年度～2003年度</p>			

[目的及び背景]

水田畦畔は、年間数回の除草が必要とされているが、高齢化、後継者の減少等により十分な管理がされておらず、病虫害、雑草の発生源となり周辺耕作地への影響が懸念される。そこで、省力的な法面緑化維持管理技術を構築する。

[成果内容]

1. 無被覆に比べ防草シートで被覆すると、植栽した地被植物の生育が速まり、被覆面積が拡大する（図1）。
2. 防草シートは貫根タイプと遮根タイプがあり、根を出して這い広がる地被植物には、貫根タイプが適している（図1）。しかし、貫根タイプのものは、ノビル等葉先が鋭角な雑草が突き抜けることがある（図2）。
3. 防草シートと組み合わせる植物は、供試植物の範囲では、ハイネズ等の木本植物より、草本植物のヒメイワダレソウ、イワダレソウ、ペニーロイヤルミントの3種の方が早く被覆する（図3）。

[留意事項]

1. ヒメイワダレソウ等、根を出して這い広がり、寒さにやや弱い植物は、貫根タイプのシートでは接地点で越冬し、来春そこから発芽するが、遮根タイプのシートは、最初の植栽地点でのみ越冬し、来春発芽するため、被覆速度に差が生じる。
2. ヒメイワダレソウ等の植物は、貫根タイプのシートの場合、接地点を支点として上下左右に広がりやすいが、遮根タイプのシートの場合、茎は放物線状に下垂するので、高い位置に植栽する。
3. チガヤ等が優先する場所では、貫根タイプのシートは避ける。
4. 防草シートを固定するには、鉄製のピン等を用いるが、シートの外周は1m間隔と密に打つ。また、幅が広いシートの場合、シートの中央部分にもピンを打つ。
5. 素材によって耐久性は異なるが、供試素材は概ね5年以上もつ。

[普及対象地域] 県下全域

[行政上の措置]

[普及状況] 山武、海匝、長生、千葉等の地域で現地試験が実施されている。

[成果の概要]

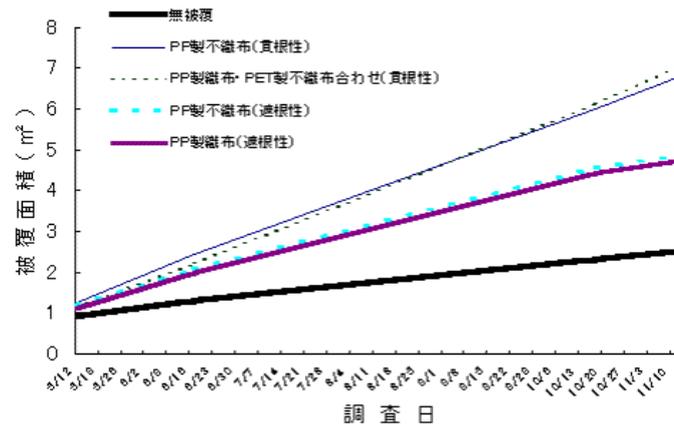


図1 法面に張り付けた各種防草シートに植栽したヒメイワダレソウの被覆面積の推移
 注) PP: ポリプロピレン PET: ポリエステル

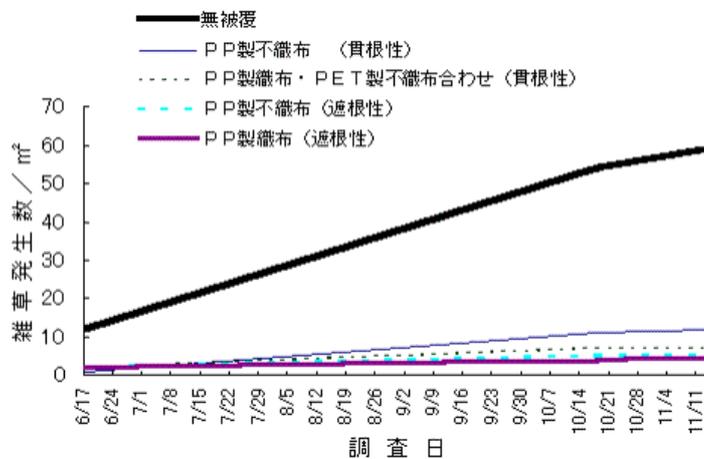


図2 法面に張り付けた各種防草シートとヒメイワダレソウの組み合わせによる雑草発生数の推移
 注) 発生雑草の多くは、ノビル、チガヤ、ヤブガラシ、ヤブカンゾウ

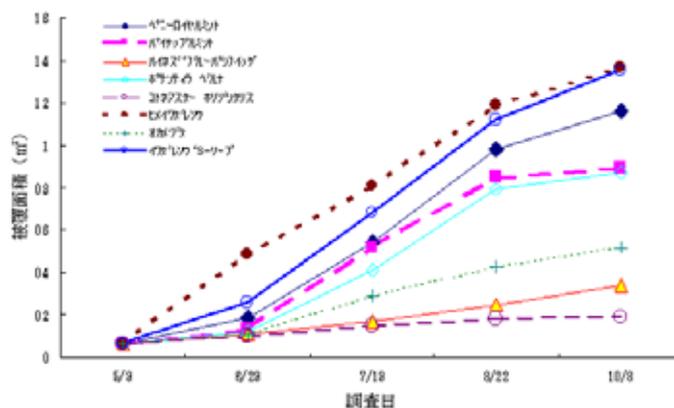


図3 法面に張り付けたPP織布製防草シートに植栽した地被植物数種の被覆面積の推移
 (8月22日調査時の雑草は、植え柵部分からのみ発生し、発生量は、0～3株/m²の範囲内にあった。)

[発表及び関連文献]

平成13, 14年度花き緑化試験成績書